

社会教育指導員の部屋

2021.12月

生涯学習課 社会教育指導員 吉澤 隆

「各地区の人権講座に参加して」

社会教育指導員として、人権同和教育に携わっています。その中で、関わりを持った内容のお話しをさせていただきます。

本年度の人権同和教育講座も、何回か計画されましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、臼田・中込・浅科地区の講座は中止になり、10月に入ってからようやくコロナ対策をとって実施できました。

10月14日の東地区の市民を対象とした講座は、佐久市人権同和教育推進員である原英正先生に、「感染症予防と人権」のお話をさせていただきました。地域赤十字奉仕団研修推進委員として活躍されていることもあり、昨今の最も関心の高いコロナウイルスの対応についてのお話は、参加者から「大変参考になった。」というご意見を多数いただきました。

また、東地区の2回目の講座を10月21日に実施し、東信教育事務所の園部勇一郎先生に、長野県の人権教育政策全般と「部落史の見直し」についてのお話をいただきました。参加された方からは、「新たな視点から部落史を考えることで、従来の認識からの変化を感じることができた。有用なお話であった。」との感想をいただきました。

私も、12月14日の望月公民館の人権講座で話をする機会をいただき、「様々な人権問題が身近にあること」と「相手の気持ちを考えることで和やかな人間関係を築くことができないか」というテーマでお話をさせていただきました。

佐久市の公立小中学校の学生は副読本「あけぼの」を用いて人権問題について学習していますが、大人はなかなかそのような機会がないので、参加された皆様に現代の

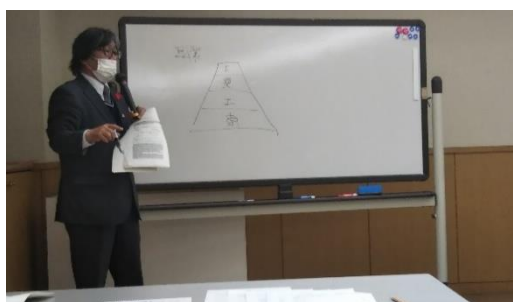
人権感覚とギャップが生まれていないか気づいていただくことをお話の主題としました。

また、信濃毎日新聞に掲載された「棘 刺さったまま 今ここにある差別」を取りあげ、同和問題に絡めた差別発言で10年近く嫌がらせを受けた市民を救済できなかったことから、長野県迷惑行為防止条例の改定案が12月10日に県議会で可決され、運用に懸念はあるものの1歩前進したことをお知らせしました。

本講座は、今関心の高い人権課題である女性の人権、子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権について、更に、長野県で重点的に捉えている同和問題と外国人の人権について、参加者と共に考える機会となりました。

2021年は東京オリンピックがあり、2022年2月には北京オリンピックが開催されます。現在のオリンピックは男性と女性が別のエリアで競技していますが、将来は性的マイノリティー（性の区分）の問題が提起される時代が来るのではないかと考えています。

「なぜ差別や偏見はなくなるのか」という課題に的確な答えは導き出せませんが、多くの人からの学びと研修などにより、より良い啓発活動ができるようにしていきたいと考えています。



県内の新型コロナウイルス感染症の状況にもよりますが、他の地区公民館でも人権講座が予定されています。日頃から人権問題を自分の事として気づくために、講座への参加をお勧めします。また、市の人権同和課では、地域への出前講座も行っていますので、講師派遣などお気軽にお問い合わせください。